

9. 循環器系の疾患 (I251 冠動脈疾患)

文献

Pal A, et al: Effect of yogic intervention on the autonomic nervous system in the patients with coronary artery disease: a randomized controlled trial. Eastern Mediterranean Health Journal 2013; Vol. 19 No.5, 452-458. PubMed ID:24617124

1. 目的

冠動脈疾患患者の自律神経系に対するヨガ実習の効果を評価する。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

インド、ウツタル・プラデーシュ州の州都ラクナウにある1医療施設

4. 参加者

冠動脈疾患患者 258 名 (35-82 歳)

医科大の循環器内科 (Department of Cardiorogy, Chhatrapati Shahuji Maharaj Medical University) で募集。

5. 介入

Arm1:(介入群) 薬物治療+ヨガ群 : 129 名 1回 35~40 分週 5 回/18 ヶ月

Arm2:(コントロール群)薬物治療群 : 129 名

6. 主なアウトカム評価指数

肥満度、ウエスト・ヒップ比、血圧、心拍数など。

副交感神経反応性テストとして、Heart rate response to standing from the supine posture (30:15 ratio)(仰向けから立った時の心拍反応)と Slow deep breathing test(ゆっくり深呼吸テスト)と Valsalva manoeuvre(バルサルバ効果)、交感神経反応性テストとして、Blood pressure response to lying to standing test(仰向けから立ったときの血圧反応)と Hand grip test(握力) 介入前と 18 ヶ月後を比較。

7. 主な結果

ヨガ群の方がより有意に BMI ($P < 0.0001$)、ウエスト・ヒップ比($P < 0.005$)、収縮期血圧($P < 0.002$)、拡張期血圧($P < 0.0002$)、安静時心拍数($P < 0.0006$)において減少または低下した。コントロール群では BMI は実質的には変化なく、拡張期血圧平均値は逆に若干上昇した。安静時心拍数は有意な変化がなかった。

交感神経機能、副交感神経機能を評価する試験では、いずれの試験も両群で差はなかった。

8. 結論

冠動脈疾患患者に対して、ヨガセラピーが補助療法として有効性がみられた。

9. 安全性に関する言及

なし

10. ドロップアウト率とドロップアウト群の特徴

50 名(20.5%)

介入群 (24 名) 18 名ヨガ実習 16%未満、2 名死亡、4 名移動

対照群 (26 名) 15 名投薬中止、3 名死亡、4 名多忙、4 名連絡不能

11. ヨガの詳細

記載なし (セッションは無料で必要な設備はすべて用意された)

12. Abstractor のコメント

この研究は AYUSH 省の委託研究プロジェクトの一部ということで、実習内容の詳細がこのレポートで述べられていない部分があった。予定実習の頻度は週 5 日と高く、参加率 16%がボーダーラインとなっているが、それでも効果が確認されていることは注目に値する。ただし、本研究の目的であった自律神経機能に対して、コントロール群との間に差はない。

13. Abstractor の推奨度

冠動脈疾患患者に対してヨガを勧める。

14. Abstractor and Date

石村 千明 岡 孝和 2015.1.30